

**低出生体重児の両親の心のケアにつながる  
小さく生まれた赤ちゃんのための肌着とミトンを広めるプロジェクト**

医師・看護師向けの出版教育事業を手がける株式会社メディカ出版（本社：大阪市淀川区、代表取締役社長：長谷川素美）が運営する医療専門クラウドファンディングサイト「Fanfare（ファンファーレ）」にて、低出生体重児のための肌着やミトンのサンプルを NICU（新生児集中治療室）に届けるプロジェクトを立ち上げ、その資金として 70 万円を目標に支援を募っています。

本プロジェクトを立案した奥村由乃氏は自身が低出生体重児を出産した際に、我が子が標準サイズの肌着が大きすぎて埋もれている姿を見て、大きなショックを受けたといいます。早産児、低出生体重児の親は心理的ケアが必要とされるほど、自責の念、罪悪感、悲しみ、抑鬱、怒りなどの感情を抱くといわれています。また、NICU の保育器の中では治療のために裸で過ごすことが多く、服を着用できる段階になっても一般的には標準サイズの肌着が使用され、親は面会のたびに悲しい思いをすることとなります。

その経験から、奥村氏は子どもが入院していた京都府立医科大学病院 NICU の看護師たちに相談し、サイズの小さな肌着を手作りしました。すると、ぴったり合うサイズの暖かい色や楽しい柄の肌着を着せることで、緊張感の高い医療現場において、親やスタッフも楽しい気持ちになり、スタッフと親、スタッフ同士のコミュニケーションのきっかけとなり、そこに起こる笑いがエネルギーに変わること、治療やケアの助けにもなることに気づきました。それから、体重約 1,500g までの低出生体重児に最適な肌着、帽子、ミトンをはじめ、さまざまなグッズを、着心地や点滴のしやすさ、国産のガーゼやオーガニックコットンなど肌に優しい素材を使用するなど安全性を考慮し開発、同院の看護師とともに改良を重ね、その普及活動に取り組んでいます。

出生体重が 2,500g 未満の新生児を低出生体重児と定義しますが、国内におけるその数は 1980 年が全出生児の 5.6% に対し、2017 年には 9.4% となり、出生数の減少にも関わらず増加しています。その要因は医療技術の進歩による低出生体重児の生存率の向上などが挙げられます。NICU においては母子分離の状態から母子関係の形成が不利になりやすいともいわれます。家族に提供されるケアのひとつで、家族も子どものケアや治療方針の意思決定に主体的に参加するファミリーセンタードケアの観点からも意義のある商品を、まず全国約 400 施設の NICU のうち、半数の基幹施設に普及させたいと考えています。



プロジェクト：「小さく生まれてきた赤ちゃんのために  
サイズぴったりの肌着とミトンを全国の NICU に届けたい」  
URL：<https://fanfare.medica.co.jp/funding/projects/sousourire/>  
期 間：2019年8月4日(日)15:00 まで  
目標金額：700,000 円  
支 援 額：2,000 円～50,000 円  
リターン：マスク、ミトン、帽子、コットンバッグ、エプロン、  
出張ワークショップなど支援額に応じて設定

**【本リリースに関するお問い合わせ】**

株式会社メディカ出版「Fanfare 事務局」 担当：池田・出路<sup>でみち</sup>  
TEL:06-7638-8992 FAX:06-6398-5068 E-mail:fanfare@medica.co.jp